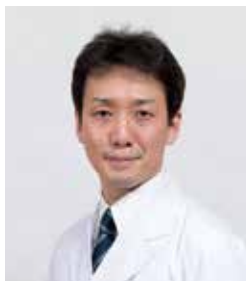


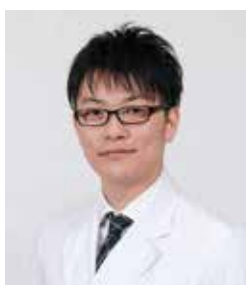
小児グループ



奥村 一慶 (2011年卒)

Hepatoblastoma with HCC featuresにおける分子基盤解明

今年度から研究を行っております2011年卒の奥村です。テーマは「進行肝芽腫(HB)および肝細胞癌(HCC)/stemlike subtypeの共通分子機構に基づくドライバーエピゲノム変異の解明」です。HBとHCCとが混在した組織型を呈し、若年かつ正常背景肝に発症するHepatoblastoma with HCC featuresと呼ばれる予後不良な希少肝癌は、Stemnessを有するHBおよびHCCとの類似点が示唆されております。当GではHB発生・増悪性化に関与するエピゲノム異常に関して基礎研究を行っており、その中でmiRNA発現プロファイル解析によって肺転移を有する進行型HBにおける14q32インプリング領域に位置する遺伝子の多数異常高発現を同定し、HCCのうちstem cellの特徴を持つ予後不良なタイプ(HCC/stemlike subtype)にみられる現象と共通した分子機構異常であることを発見しています。新たに解析対象としてHCC/stemlike subtypeに対しエピゲノム解析を行い、これまでに集積した進行型HBのエピゲノム異常との共通分子機構を解明するべく研究を進行させております。



近藤 享史 (2012年卒)

肝芽腫のDNAメチル化解析に基づく予後予測モデルの開発

今年度より大学院に入学し、小児グループとしての臨床に加え、基礎研究にも従事することとなりました。肝芽腫の成因には、ゲノム変異が少ないことからエピゲノム異常が重要な働きを占めていると考えられ、当教室においてはDNAメチル化解析を中心に、肝芽腫のエピゲノム異常について研究を進めて参りました。私は今まで先行研究によって明らかにされてきたメチル化異常を統合し、肝芽腫治療層別化のための、臨床応用可能な予後予測モデルを確立することをテーマとしています。日本小児肝癌スタディグループ(JPLT)からも検体を供与頂き、マイクロアレイやパイロシークエンシングを用いたメチル化解析を進めているところです。

今後とも引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

